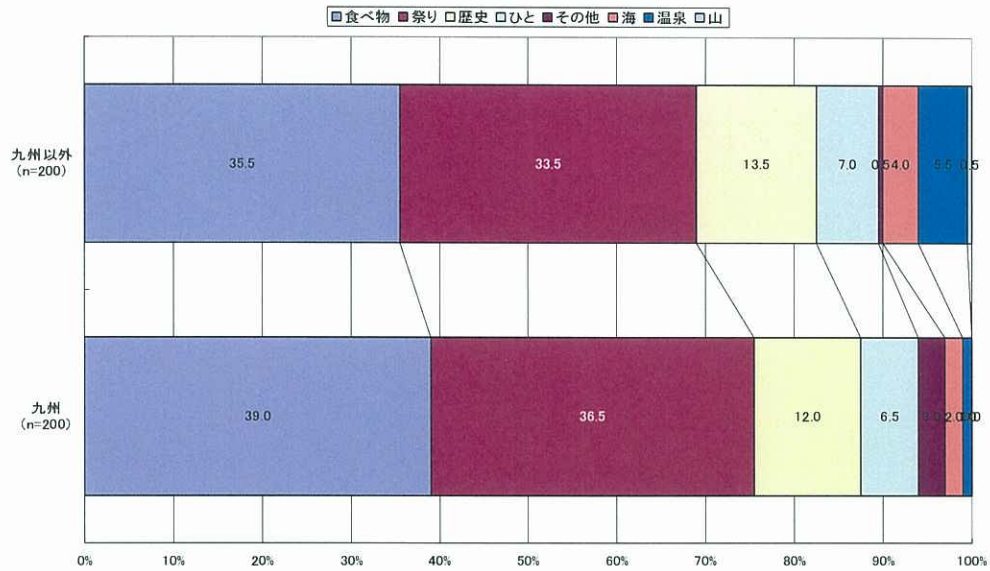


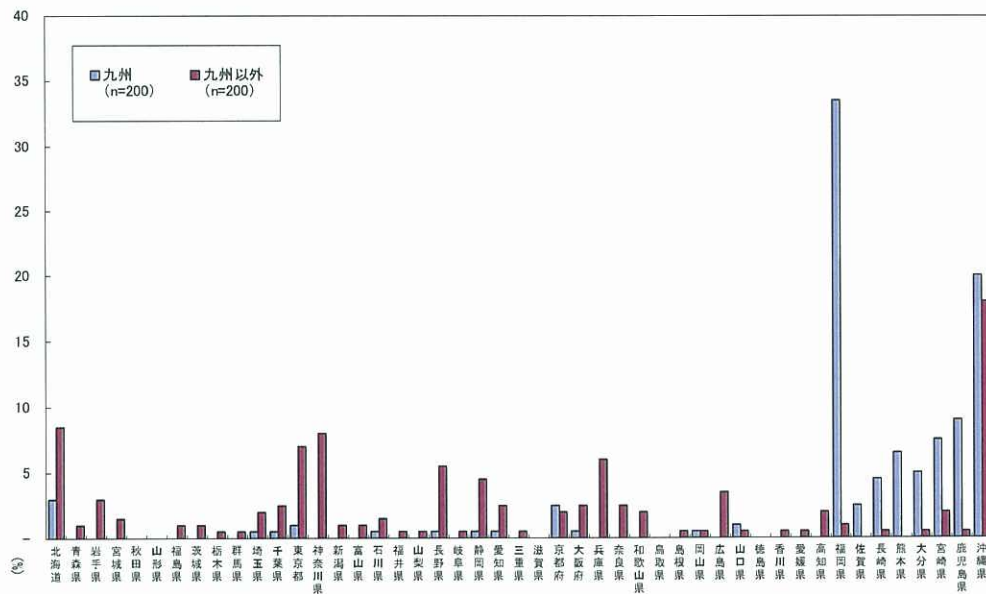
図表3 福岡が他県に誇れると思うものは？



(1)実施時期：2007年12月11日～13日 (2)実施方法：アンケート用紙による留置法  
 (3)対象者：55歳～65歳の男性 (4)有効回答数：九州：200、九州以外：200（回答率100%）

-3 住みやすさ 九州の50～60歳代の方は、定年後に住みたい県として福岡を挙げる。九州7県の人にとって福岡は最も住むのに適し、終の棲家として憧れの地である。(図表4)

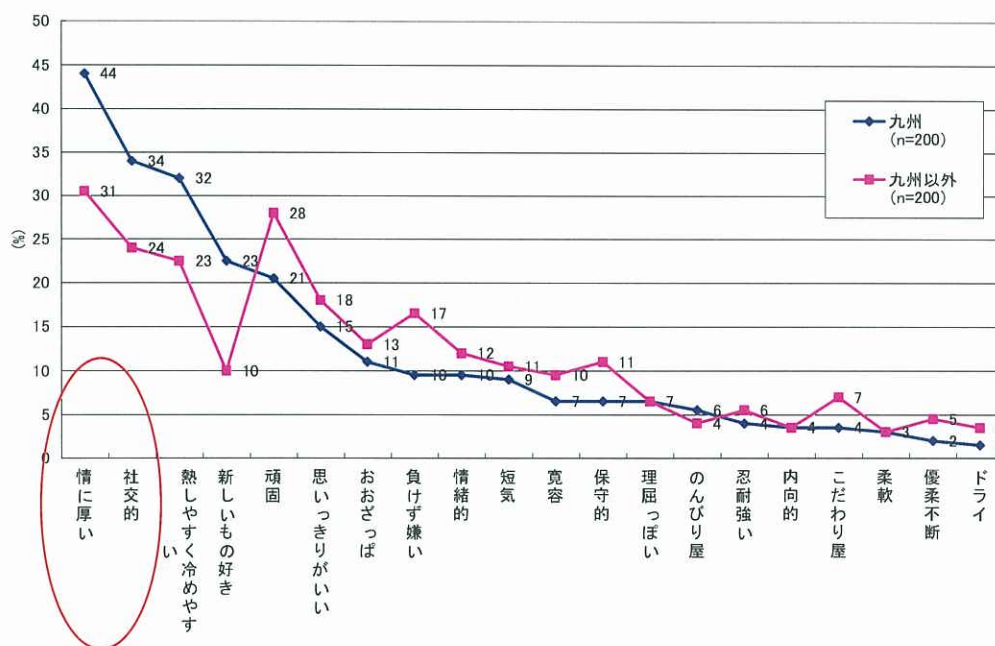
図表4 定年後に住みたいところはどこですか？



実施方法等は図表3と同じ

-4 親しみやすさ 九州北部の人は「情に厚い」「社交的」という性格のキーワードが九州・九州以外の人からそれぞれ抽出 されている。人を受け入れやすく世話好きな傾向が 読み取れる。

図表5 福岡の人のイメージは？



実施方法等は図表3と同じ

## 2. 地域資源のSWOT分析

ここで言うSWOT分析とは、戦略立案にあたり内部環境に当たる九州北部自体の強みと弱みを抽出するとともに、それら内部環境を生かす時期や場における外部環境を機会と脅威に区別して抽出する一連の作業である。

1. で整理した5分野の地域資源について、次の観点から、SWOT分析を行った。

- 地の利と特徴（リソース）を活かす
- 福岡・北九州・その他の地域の連帯メリットを発揮する
- 外部からの視点で発想する

なお、SWOT分析を行うにあたっては、検討委員会の下部組織であるワーキンググループ（以下WG）を2008年11月と12月に合計2回開催し、WGのメンバー間での討議事項に事務局が抽出した要素を加えた上で、「伸ばすべき強み」と「克服すべき弱み」を抽出した。

また、第2章の「社会情勢の変化」及び「21世紀型社会のパラダイム」から、当地域をめぐる機会と脅威を抽出した。

この分析を通じて、九州北部が「アジア交流広域都市圏」として発展するため、今後目指すべき戦力的拠点像の方向性を導き出す手法を取った。

ここで「戦略的」としたのは、広範な資源を、複数自治体間の連携の効果と、外部、特にアジアからの視点で有効なものに絞り込み、インパクトのあるものにするためである。

このため、このSWOT分析を通じて抽出された要素を、次の観点から組み合わせ、戦略的拠点像の方向性を導き出すこととした。

- ・複数自治体間の連携が成り立つ、「要素の組み合わせ」を設定すること
- ・要素相互が組み合わせにより、インテグレーションを起こすこと

これらを、SWOT分析表としてまとめたものが次の表である。